日ソ・ロ関係におけるサハリン問題と樺太人の役割

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学社会科学研究所 公開日: 2014-12-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ヴァシリューク, スヴェトラーナ メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/16879

日ソ・ロ関係におけるサハリン問題と樺太人の役割

ヴァシリューク・スヴェトラーナ

本研究プロジェクトは、日ソ・ロ関係におけるサハリン問題を取り上げ、特に、「樺太人」（現在は南サハリンとなった日本の旧樺太植民地出身者の集団）と日ソ・ロ関係で彼らが果たした役割に焦点を当てている。特に、樺太人が、樺太時代（1905-1945年）に日本の中で独特の地位を占める集団として、また終戦による引揚後は、旧日本帝国の植民地からの引揚者あるいは「お荷物的な」国民（"Burden citizens"）の特別な集団としてのアイデンティティーを形成していったかを検討する。それに加えて、第２次世界大戦後のソ連の侵攻に対する彼らの抵抗と樺太からの引揚、更には、旧ソ連とその後のロシアに対する日本の政策に対する彼らの政治的な影響と活動についても論じる。

本研究の成果については、2012年の９月に米国ルイジアナ州のニューオリンズで開催された米国政治科学学会（ASPA）での研究発表に加えて、2013年４月４日～７日に大阪で開催される国際シンポジウム ACAH（Asian Conference on Arts and Humanities）において、「日ソ・露関係のおける樺太人

の政治的目標と活動」と題する中間研究報告を行った。報告書では、まず初めに、日・ロ間での初期の国境設定と第２次世界大戦中の樺太の行政地位の変更を中心に樺太の歴史を概観する。更に、1945年の樺太のソ連への返還後の樺太人の社会・政治的地位の変化を分析し、樺太人の日本への引揚に関連した様々な問題と政府による効果的な支援措置の欠如が、どの様に彼らの政治的目標の形成に影響を与え、また、彼らの公式な団体である全国樺太連盟の設立につながったかを明らかにする。

全国樺太連盟の歴史と政治活動を検討することにより、樺太人が日本の一般大衆の旧ソ連・ロシアに対する見方に与えた影響、そして戦後の日本政府の公式な対モスクワ政策の形成において彼らが果たした役割、更には、日本の社会に対する彼らの歴史的な遺産を明らかにする。樺太人の果たした政治・社会的な役割の分析を行うに当っては、現在の日ロ関係の文脈の中で、特に戦後の日本の対ソ・ロ政策における「サハリン問題」と、第２次大戦末期にソ連が占領した日本の北方領土（択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島）と樺太（南サハリン）の返還要求に焦点を当てて分析を行う。報告書では、最後に、樺太連盟の指導者とのインタビューと樺太連盟会員への質問状への回答に基づき、日本の社会における樺太人の現在の地位と役割、そして彼らの政治団体と活動の将来を分析する。

以　上